

べんざいてん びわ
弁財天の琵琶
(緒川)

けんこんいん べんざいてん えが
乾坤院にある弁財天の絵は、だれが描いたかわかりませんが、鎌倉時代の作で、愛知県の文化財に指定されている立派なものです。

いっぽん き こと た か
一本の木に琴が立て掛けられており、その前で弁天様が琵琶を抱えて弾いているという構図です。弁天様は、七福神の中に数えられる女のかみさま びわ じょうず
神様で、琵琶が上手だと言われています。

いっこのころからか、この絵が乾坤院の寺宝となり、本堂わきに掛けられるようになりました。

ある時、小僧さんが、夜のお勤めを終わり、示玄堂に帰って寝ようとしていますと、どこからともなく美しい琴の音が響いてきます。

「はてな、この夜ふけにだれが琴など弾くのだろう。いやいや、これは、わたしの空耳かも知れないぞ。」

そう思っ寝ようとしていますと、今度は、美しい琵琶の音に変わりました。

「おかしいなあ、この寺に琴や琵琶などを弾く者はいないはずだが。」

それでも、耳を澄ましていますと、かすかに

ではありませんが、たしかに心が洗われるような、
たえなる琵琶の音がどこからともなく響いてく
るのでした。小僧さんは、不思議に思っ、
琵琶の音にさそわれるようにして本堂のほうへ行
って見ました。すると、いつの間にか音は止ま
ってしまいました。

「たしかにこちらのほうから聞こえてきたのだ
が……。」

小僧さんは、暗やみの本堂に立ちつくしていま
した。そのうちに、だんだん目がなれてきます
と、本堂のしゆみだんのよこに、白い弁天様の

お顔が浮かび上がってきました。
近づいてよく見ますと、そこに、弁天様が琵琶
を弾いている絵が掛かっているのです。



斜め前を向いて、うつむきかげんにした白いお
顔は、自分で自分の弾く琵琶の音に聞きほれて
いるかのようでありました。白い右腕はバチを
持って弦に触れ、いまにも美しい音色を発しそ
うな様子でした。



それからも、小僧さんは、しばしば弁天様の
かなでる琴や琵琶の音を聞いたということであ
ります。

▼
絹本着色弁財天像 (県指定文化財)

けんぼんちやくしよくべざいてんぞう

けんしていぶんかざい